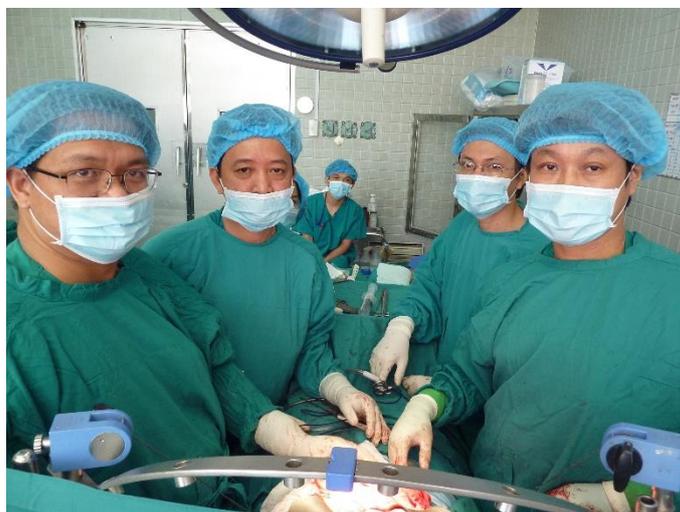


それは当然の呼び出しであった。“倉田先生、ベトナム行けますか？”  
すでに師走。今年は異動やら何やら忙しい一年だったと振り返ろうかと思っていた矢先に、  
もう一つイベントがやってきた。“手術あるけど、別にいいですよ。”いとも簡単に返答し  
た。

いざチョーライ病院に行ってみると、まず激励の飲み会、さらに翌日には肝切除。CUSA  
もなく一昔前の日本の手術室の様相であった。幸いにして文明の利器ないところでも手術  
ができるような環境で育ってきた私にはむしろ懐かしい感じさえした。

第一印象は、技術協力なんていらなくらい、肝切除の技術は優れていた。区域切除や  
葉切除しかないらしいが、数多くの手術をこなしているだけのことは感じられた。B型慢性  
肝炎が多いために巨大な肝細胞がん患者が多くいる。小さな肝細胞がんはRFAで対応して、  
大きな肝細胞がんは手術で対応している。

画像診断とその治療方針決定のため、多くの患者さんが外来を受診していた。入院患者  
数もけた違いに多く、だれが患者で家族かわからないような混みっぷりであった。ぜひ若  
い外科医に来てほしいと肝腫瘍グループのボスは言っていた。その通り、数多くの症例を  
経験できる良い機会なので、肝臓外科を目指す外科医は是非訪れてみる価値があると感じ  
た。



肝後区域切除 2.5時間で終了。